10月26日「原子力の日」にあたって

上関原子力発電所の建設実現に向け 今こそ心をひとつに！

◆　責任ある政治を目指す安倍総理は、年内に「原子力発電の活用を明記」した新たなエネルギー政策を定めようとしています。これまでの議論では、改めて原子力を評価しつつ、一部の委員からは、今後の新増設を求める声もあがりはじめました。（10／17日経など）

また今年7月には、原子力の規制基準が見直され、現在、全国で7基の発電所を対象とした安全審査が進められるなど、再稼動に向けた動きも着実に現れています。

このように、安全性を確実に高めた上で、今後も原子力発電を活用し続けようとする最近の動きは、「ようやく、現実的で冷静な方向性へと変化してきた」と言えるのではないでしょうか。

「原発活用」明記へ

基本計画　基幹エネ位置付け

エネルギー基本計画

原発活用 課題検証へ

経産省　新設・建て替えなど

◆　一方、私たちの上関町では、およそ一年半にわたって「地域ビジョン検討会」が開催されました。検討会では、原子力計画について立場の異なるメンバーにより、まさに「膝を付き合わせた議論」が行われましたが、過疎高齢化がますます進む中、「今後、原子力発電所関連の財源や経済効果が見込めなければ、町が厳しい財政運営を強いられる」ことが改めて確認されたのです。

◆　故郷・上関町をいつまでも大切に思い、次の世代へきちんと繋げたいという気持ちは、全ての町民が同じはずです。そのためにも、貴重な自然や文化を守りつつ、上関原子力発電所の建設を確実なものとし、交付金事業の「鳩子の湯」や、これから建設される「ふるさと市場」、「総合文化センター」を軸に、活力ある豊かなまちづくりを実現することで、誰もが安心して暮らし、生き生きと働き、笑顔でいっぱいの子育ができ、穏やかな老後を迎えるよう、私たちは、立場や意見の違いを乗り越え、今こそ心をひとつにすべき時です！

上関町まちづくり連絡協議会